

研究開発促進事業

貝類養殖漁場適正利用技術開発研究

—— ホタテガイ養殖漁場利用技術研究 ——

(要 約)

青山 禎夫・高橋 克成・田中 俊輔・塩垣 優
直江 春三・永峰 文洋・三津谷 正・尾坂 康

本研究は昭和51年度から始まり、陸奥湾におけるホタテガイ養殖漁場の適正利用方式について技術的
究明をおこない、ホタテガイ産業の安定的発展をはかることを目的に下記の試験研究を実施した。

I 実証試験

1) モデル養殖試験

- 51年度開始試験……51年から継続して養殖試験を実施。 場所：川内・茂浦(52年で中止)
- 52年度開始試験……52年採苗から養殖試験を継続実施。 場所：川内・茂浦
- 53年度開始試験……大規模(30万個)な養殖試験を開始。 場所：野辺地

2) モニター養殖試験：52年から茂浦地区の漁業者3名を対象に継続した。

II 養殖技術改良試験

- 1) 初期種苗の検討：分散時期、収容密度が異なった種苗性をつくり出すこと等についての試験を実施した。
- 2) 生理特性の検討：成育条件の異なる貝の活力試験、ホタテガイの底質に対する選択性の研究などを通して、異常貝の発生要因となる諸条件の検討をおこなった。
- 3) その他の試験：海底部における稚貝の生残りに関する観察、貧酸素水がホタテガイに及ぼす影響試験、接着養殖法による垂下養殖試験を実施した。

III 漁場環境条件調査

- 1) 海況自動観測：陸奥湾内に設置された5基のロボットブイにより、環境条件を周年観測した。
- 2) 実証漁場環境調査
 - 実証漁場水質調査：水温、塩分、DO、COD、SS、クロロフィルaの測定を茂浦、久栗坂地先の実験漁場とその周辺海域で実施した。
 - 漁場底質調査：16調査点で強熱減量、全硫化物、有機物量、フェオフィチン等を測定した。
 - 養殖籠内微環境調査：ホタテガイ養殖籠内のCOD、 PO_4-P を測定した。



本研究の詳細は「昭和51～53年度貝類養殖漁場適正利技術開発研究」報告書を参照されたい。